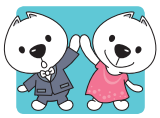
北海道・東北

岩手県	鷲盛法子さん		卓球	6
	安倍けんこさん		パークゴルフ	7
秋田県	鈴木龍一さん		グラウンド・ゴルフ	8
福島県	玉木恵久子さん		ダンススポーツ	9
	加藤一郎さん		オリエンテーリング	10

卓球　「南部いわて」（選手）

鷲盛法子（わしもりのりこ）さん　78歳　●参加歴：2回目

何かに必死に立ち向かう「わくわく感」が蘇った

紀三井寺公園陸上競技場で開会式入場のアナウンスとともに、お揃いの紺碧のユニフォームを着た145人の岩手県選手団の行進が始まった。2度目のねんりんピック参加だったが、新鮮な気持ちと高揚感が抑えきれず、本部席通過後の旗の降下も忘れて仲間から注意されて苦笑い。

開会式、アトラクションともに感動的だった。岩手国体の観客席で味わった感動とは別の、胸の高鳴りと満足感で一杯だった。1万人の選手と観客を含め、延べ約56万人の参加だというが、その人数と色とりどりの衣装はまさに圧巻そのもの。自分がこの群衆の中にいる一人だと思うと興奮し、不思議な感覚を味わった。

卓球は6人（男3、女3）のチームで、60、65、70歳以上で構成されている。盛岡、滝沢、紫波、奥州、大船渡、北上と地域はばらばらだったが、何度となく集合し、技術向上と意識統一を図った。県代表として仲間に迷惑はかけられないという気持ちで、必死に練習会場に向かった。夏場には汗が滝のように流れ、それでもこのチャンスを生かそうと、アドバイスを受けながら、技術向上に必死に取り組んだ。大会までは怪我のないよう、病気にかからないよう健康管理に努めた。何かに必死に立ち向かう感覚が久しぶりに蘇り、青春が宿り、学生時代に経験したわくわく感がとても心地よかった。

和歌山は遠く、不安一杯。「大丈夫、大丈夫」といい聞かせての参加だった。無事にクリアできたことで、自信と勇気が得られた。この大会は名称を「全国健康福祉祭」という。75歳を過ぎてからこの大会の開催を知り、偶然にも2年前から70歳以上の女子1名の参加が認められ、秋田ねんりんピックに初挑戦した。今回は年齢的にも体力的にも技術的にも無理と諦めていたものの、チャンスが訪れて出場できた。

最初は申し訳ない、私でいいのかと遠慮がちだった。参加選手の中で最高齢者の表彰があり、何と100歳の表彰者がいることを知り、ねんりんピックの開催趣旨・意味づけを理解した。100歳時代といわれている昨今、健康で目標を持って生きていくことの重要性を改めて感じ取る貴重な大会になった。岩手の戦力の一員として力不足を感じたが、長年続けてきた卓球を今後も継続し、健康づくりに励んでいきたい。

ねんりんピックの仲間には深く感謝している。そして事務局の方々からいただいた支援と協力で無事終えられたことに感謝で一杯である。

大会出場で絆を深めたチーム仲間と。（前列右端）

パークゴルフ 「北上市」（選手）

安倍（あんばい）けんこさん　73歳　● 参加歴：1回目

体調不良を克服し、無事に参加できたことに万歳！

定年退職後、地域の役員を5つほど務め終えました。毎日が日曜日となりボーっとすることが増え、生活に張り合いがなくなっていた頃、友人からパークゴルフに誘われました。

はじめは健康のためにと思い、取り組んだパークゴルフでしたが、今では、はまりにはまっている自分がいます。痛かった足首も膝も、気がつけば回復していたことには驚きました。

開会式では、行進している自分が誇らしく、まだ頑張れるぞと若さも感じた一瞬でした。

たまゆらの里の宿舎から、喜美野町のかみふれあい公園パークゴルフ場での公式練習は、十分に楽しめました。

ところが大会当日のこと、バス酔いもあってか体調を崩してしまいました。血圧が150以上もあり、保健師さんの世話になりました。青白い顔もしていたのでしょうか。体を温めたり、熱いお茶を出したりと、あれこれと心配をしてもらいました。

「この分では競技は難しいですね」と医師に言われ、頭の中は真っ白。県代表で和歌山まで来たのに試合もせずには帰れないと思い、「大丈夫です、少々血圧が高くても試合には絶対出ます」と半ば懇願するように、強く一方的に話していました。「では、30分後にもう一度測ってみましょう！　結論は、その時に」。それから、何度も深呼吸をし、血圧を下げる努力（？）をしました。その30分の長かったこと。再度計測して130。「良かったー、下がってる」。事なきを得て、競技参加の許可が下りました。この時のうれしかったこと。心の中で万歳をしました。

交流試合中、「安倍さん、体調大丈夫ですか」と何度となく声をかけられました。パークの役員さんたちからでした。きっと医師からの申し送り事項だったのでしょう。高齢者の大会だけに、健康面には特に注意していることが伝わってきました。成績は散々でしたが、今後も好きなパークゴルフを続けて行くためにも、健康に気をつけ、人と関わりながら、楽しく生活を送りたいと思います。

大会関係者の皆様には、目に見えない気遣いとご苦労があったかと思います。大変お世話になりました。ありがとう！

入場行進の前にチームメイトと。（左から2番目）

グラウンド・ゴルフ　「秋田県」（選手）

鈴木龍一（すずき りゅういち）さん　74歳　● 参加歴：３回目

他県のプレーヤーとも交流を深めた思い出深い２日間

この機会を逃しては、和歌山県に行けないと思い、何があっても行こうと参加することを決めました。しかし、参加予定者の１人が家庭の事情により参加できなくなり、グラウンド・ゴルフの場合、６名のプレーヤーが１チームとなり参加するため、出場が一時危ぶまれました。その後、新しいメンバーが参加してくれることになり、秋田県チームとして男女３名ずつが参加することになりました。

11月８日、秋田空港に集合し、大阪伊丹空港を経由して、バスで秋田県選手団の宿泊地に到着しました。９日には紀三井寺公園陸上競技場で、皇族をお迎えして総合開会式およびアトラクションなどが行われ、素晴らしいものでした。

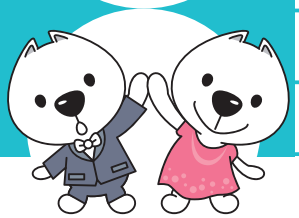
そして、９日、グラウンド･ゴルフ交流大会が、日高川町の南山スポーツ公園、人工芝生の陸上競技場でプレーヤー400名の参加で開催されました。私の組は男子４人と女子２人の６人で、プレー前のあいさつを交わし、第１・第２ラウンドの16ホールを、各県それぞれの方言で話し合いながら、プレーを楽しみ、交流を深めました。10日には、第３ラウンド８ホールを終了し、2020年の全国グラウンド・ゴルフ交歓大会が秋田県開催なので、そこでまた会うことを約束し、楽しく和気藹々と２日間の日程を終了しました。私の成績はあまり良い打数ではありませんでしたが、満足した大会でした。

大会中は町職員やボランティアの方から、みかんの食べ放題など、温かいおもてなしやサービスを受け、また、宿泊施設の食事なども美味しくいただき、誰１人不満を漏らすことなく、満足に過ごすことができました。

表彰式終了後にレンタカーを借り、「道成寺」や「那智の滝」などの観光地巡りを１泊で行いました。ねんりんピック参加者には行く先々で観光施設の入館料などが減額され、至れり尽くせりの４泊５日でした。その間１日も雨に当たることなく、楽しく記憶に残る和歌山大会でした。

南山スポーツ公園でプレー前に。（右端）

チームのメンバーと観光も楽しんだ。（後列左端）



ダンススポーツ　「チーム　スターダンス」（選手）

玉木恵久子（たまきえくこ）さん　67歳　● 参加歴：2回目

チームの絆で勝ち取った団体優勝！

今回、ダンススポーツに出場する４組は、福島県双葉郡浪江町の「浪江スターダンス教室」にもともと所属していました。過去に日本チャンピオンも輩出している伝統ある教室です。しかし９年前の東日本大震災で避難を余儀なくされ、教室も移転し、皆が離ればなれになってしまいました。そんな私たちが、2019年のダンス仲間の新年会で、和歌山のねんりんピックに出ようと話が盛り上がりました。選考会を終えていよいよ出場が決まりました。初出場が２組、２回目が１組、３回目が１組の計４組です。私たちは２回目の出場で、前回は団体戦３位でした。今回は前回以上の成績をあげたいと秘かに思い描いていました。チーム紹介の文は私が作成しました。「うつくしまふくしま、私たちは負けません。強く美しく舞います」と。

皆の住まいは富士市、いわき市、南相馬市と遠く離れていますが、お互いに鼓舞しながら各々練習に励みました。10月には地元テレビ局の取材を受けて、「ねんりんピックに向けいきいきと練習に励む高齢者」というタイトルで、４組の練習風景が放映されました。

さあ、いよいよねんりんピック大会当日です。個人戦を戦い、ついに団体戦です。皆、朝からの競技でクタクタです。競技も進み、準決勝、そして決勝へ…。

体力も精神状態も極限状態でしたが、皆が持てる以上の力を出して頑張りました。さあ、結果発表です。順に６位から発表され、２位になっても、福島県はコールされません。やった！優勝です。泣きました。抱き合って喜びました。聞いたことのある言葉ですが、今まで生きてきて一番感動しました。ダンススポーツを30年続けていて、その集大成のような気がしました。個人戦でもワルツで５位入賞し、感無量です。

大会後は優勝の喜びに浸りながら、世界遺産の神々しい「熊野三山」に向かいました。陽光を浴び、凛とした空気の「高野山」巡りも最高でした。67歳を過ぎた今、こんなに素晴らしい感動を体験できたことは夢のようです。

ありがとう、仲間たち！　ありがとう、ねんりんピック！

審査員の前で緊張しながらの競技。

チームの絆で勝ち取った団体優勝。
（前列右から２番目）

オリエンテーリング　「福島県ベテランズ」（選手）

加藤一郎（かとういちろう）さん　68歳　● 参加歴：1回目

緊張しながらのスタート。終わってみれば「準優勝」！

ねんりんピックでオリエンテーリングが実施されるのは十数年ぶりのことです。今回は都道府県対抗形式のポイントオリエンテーリングと聞いて、ぜひ参加したいと思いました。幸いにも参加希望者が少なく、予選会なしで参加できました。福島県老人クラブ連合会と福島県オリエンテーリング協会からの援助も受け、県代表としての意識を新たにしました。

福島県からは、選手監督など総勢141名が参加しました。雲ひとつない晴天の下、開会式会場の紀三井寺公園陸上競技場に着くと、歓迎アーチや特産品ブースが設けられ、歓迎イベントが行われて大会への気持ちも高揚しました。

入場行進のあと、福島県選手団はステージの正面に整列しました。式典では主催者の挨拶に続き、皇族の彬子女王殿下からのお言葉がありました。その後、スタンドに移動して、アトラクションや郷土出身歌手である坂本冬美さんの熱唱を観賞しました。弁当を食べると、いよいよ競技別に分かれて会場に移動です。

オリエンテーリングの監督・代表者会議では、テレイン内にある世界遺産に登録された三谷坂の通行が禁止され、横断は指定区間のみが可能で、違反者は即失格になるというルールの説明がありました。林を走行する競技者にとって緊張する場面だと思いました。また、携帯電話番号の報告と保持を義務づけられたのは、高齢者の大会であることから、安全面を重視している表れで主催者の配慮を感じました。

競技は世界遺産登録の「丹生都比売神社」と「三谷坂」周囲が会場となります。前々日の懇親会での約束通り、福島県の金子団長と齋藤事務局長が応援に駆けつけ、一緒に丹生都比売神社に健闘を祈願しました。「頑張らなくちゃ」と緊張しながらスタートしました。御利益もあり、終わってみれば「準優勝」という成績にびっくりです。

表彰式は、ゴール地点のかつらぎ町天野地域交流センターで行われ、太鼓や神楽のアトラクション、小・中学生の福島県選手の歓迎ポスター、地元特産の無料配布などなど地元の方々のおもてなしは最高でした。

和歌山県オリエンテーリング協会、かつらぎ町の皆さん、ありがとうございました。

開会式会場の歓迎アーチ前で気持ちが昂る。

終わってみれば、準優勝という驚きの結果に。（左端）